

は既に故人となっている。Bob Salivan氏や村上夫妻のお墓もあった。まだ生存中の原田ご夫妻のお墓は、お二人の没年月の刻印は無かったが、結婚記念日は既にかかれていた。他の墓石を見ても必ず、結婚の年月日がかかれていたのは日本の墓石と違う。41年歴史を背負っている古川安男氏が過去の功労者に線香を手向けていたのは印象的で、歴史は流れていることを実感した一瞬であった。



<生存中の原田夫妻のお墓>



<オンタリオ市のお墓>

⑥ 2世のNagakiさんの農場へ

墓参の後は自由行動になったので、瓜生氏の計らいで、日系人の農場を訪問することになった。Nagaki Farms Inc.は日系人2世のNagaki夫妻が経営している。玉ねぎ農場には巨大な農機があり、Nagaki氏の好意で大型のトラクターに乗せてもらった。トラクターにはGPSがついていて、畝を間違えずに運転ができる。後部には玉ねぎの掘り起こし装置が牽引されていて、その生産性の威力は凄い。Nagaki氏の奥さんは白人Sharonさん。姉妹都市関係で活躍しておられるご仁。ご子息は大学生で今年の6月にご夫妻と一緒に来日されている。大学生が今後も農場を継いでくれるかどうか多少の疑問がありそうだった。庭で話をしていた時にガレージに車が入った。お母さんとの説明があったので、ご挨拶をしたが、なんと91歳のおばあさんだった。当地にお年寄りも、原田夫妻にしても瓜生さんにしても、車が唯一の交通手段だとはいえ、随分上手に運転しておられるのには感心した。70歳を超えると免許返上を勧められる日本とはえらく違うものだ。必要は発明の母。



<Nagakiさんのおばあちゃん>



<Nagaki 農場での巨大耕運機>

⑦ Four River Culture Center (博物館ほか) 見学

Matt氏の都合で、早い目に文化センターに着いた。他の人たちはまだ到着していなかったため、文化センター内を見学した。この文化センターはNPO団体が運営している多目的の施設で、中には博物館もある。当時、東部からこのOntarioによりよい生活求めて開拓者がやって来た。1840年代には家族持ちの入植者には無料の土地が与えられたようだ。第2次世界大戦の時に、太平洋岸に居住する日系人は敵国人として強制収容所に入れられたが、戦争が終わった後に、このOntario市に移住したらしい。勤勉だった日系人はこの地で成功している人たちが多く。両親が北海道出身の瓜生さんは、Ontario生まれの2世である。市内の病院で生まれた最初の日本人だ。因みに先生をしてもらった奥さん(Gail Uriu)の出身地は熊本県。昨年のご夫婦で北海道と熊本を訪問された。

